

おっぱいだより

38号

熊本地震で被災された方、また、ご家族、ご親戚、ご友人が被災された方、お見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りします。

見附市で「ネウボラみつけ」が開設されました。一方、NPOで育児支援を行っている場所があったりと、切れ目のない育児支援の輪が広がってきています。今月号では新潟市での取り組みを新潟市保健所の武藤保健師さんに紹介していただきます。

新潟市保健所健康増進課 母子・歯科保健係 武藤 由美子

新潟市保健所健康増進課母子・歯科保健係は、新潟市の妊婦・乳幼児(歯科)健康診査や相談事業等の事業を担当している係です。

新潟市では、平成28年5月23日各区役所健康福祉課に「妊娠・子育てほっとステーション」を開設しました。

「妊娠・子育てほっとステーション」は、妊娠・出産・子育てにかかわる様々な相談や各種医療費助成、児童手当などの申請手続きがワンストップで対応できる相談拠点です。

皆様は、今まで、区役所健康福祉課の窓口を、申請手続きで利用されたことがあったと思いますが、妊娠・出産・子育ての相談ができる保健師や助産師等の専門職が対応していることを知っていましたか？普段、お知らせしていないので、知っている人は少ないと思います。

そのため、「妊娠・子育てほっとステーション」として、窓口をわかりやすくし、申請手続きの際にも、妊娠・出産・子育ての相談ができますよということをお知らせすることにしました。各区役所の健康福祉課は、市及び区内の子育ての情報をたくさん持っていますので、一人ひとりの妊産婦や保護者の状況にあわせ、医療機関や子育て支援センターなどの関係機関と連携し、必要に応じて地区を担当する保健師の家庭訪問につなげるなど、必要な支援を総合的にコーディネートすることができます。

全国的に核家族化が進み、妊産婦さんや子育て中の保護者が孤立している状況が報道されており、新潟市でも、相談先がわからず一人で悩みを抱えている妊産婦さんや子育て中の保護者の方がいます。そのため、みなさんが利用する区役所が身近な相談拠点であることを、是非、知ってもらいたいと思います。



新潟市子育て応援キャラクター「ほのわちゃん」

このキャラクターは、新潟市子育て応援キャラクター「ほのわちゃん」です。各区役所健康福祉課の「妊娠・子育てほっとステーション」の目印にもなっていますので、覚えてください。

そして、開設日以降、母子健康手帳を交付する妊婦さんには、新たに「妊娠・子育てプラン」をお渡ししております。妊娠から出産後4か月頃までの手続きや支援サービス、相談窓口などを記載しています。その他、妊婦さんの状況に合わせて、支援サービスの紹介をしています。

また、「にいがた子育て応援アプリ」や子育て応援パンフレット「スキップ」もありますので、妊娠・出産・子育てにご活用ください。

このように、新潟市では、安心して妊娠・出産・子育てができるよう、切れ目ない子育て支援に取り組んでいます。一人で悩まずに、ご相談ください。

さて、今号から何回かに分けて、小さな赤ちゃんを産んで育てているお母さんのお話を連載していきます。（段落編集を行っていますが原文のままです。写真も掲載許可を頂いています）

小さな史乃のおっぱい物語～1.誕生～

「今日の朝一番で緊急帝王切開します」

まだ始業前の先生が診に来てくださったのはよかったけれど、その一言は晴天の霹靂。前日の夕方、もしもに備えて転院してきたばかり。早くて3日後の手術かな？と言われていた。ところが朝7時前から慌てて手術の準備をし、家族も緊急召集することになってしまった。

こうなった原因は「妊娠中毒症」

血圧が高くなってむくみと蛋白が出てしまうとこの診断がつく。妊娠30週あたりの健診で指摘され、中毒症が原因で赤ちゃんも小さめですねと言われていた。

帝王切開が決まった朝、赤ちゃんは妊娠33週4日1600gくらい。まだ小さいけど保育器に入ればちゃんと育ちます、と言われてちょっと安心した。職業柄、手術に対する恐怖感はなかったけど、まだまだ小さい我が子がどういう経過になるのかは少し心配だった。

2月4日9時15分、帝王切開で史乃が生まれた。

お腹から出てきた後、少し経って5回「ほぎゃあ」と泣き声が出て、これなら大丈夫だなと思った。カンガルー抱っこをさせてもらったあと、史乃はnicuへ、ママは産科病棟のicuへ入院となった。



ここからしばらくそれぞれが頑張る毎日が始まる。

～つづく～